No.127　和歌山県みなべ町（「SDGs未来都市計画」の推進）

地域力創造アドバイザー	大和田 順子氏（A362）
活用分野	SDGsを活かした農村振興、農業遺産観点からの地域資源のストーリー作り、住民参加、地域と教育機関の連携
活用期間（頻度）	令和６年度～令和７年度（月２回程度）
キーワード	＃SDGs未来都市　＃世界農業遺産　＃多世代交流　＃住民参加　＃域学連携　＃バイオ炭 ＃OECDラーニングコンパス2030　＃Well-being

【目的】

世界農業遺産に2015年に認定された「みなべ・田辺の梅システム」地域のうち、みなべ町を対象に、「SDGs未来都市」の申請を支援。選定された「自治体SDGsモデル事業」のテーマは「日本一の梅の里、“みなべ梅ラーニングコモンズ”による人・地域・地球の健康増進」。住民・職員が参加し地域の課題解決に向けて主体的に活動する組織の確立を目指す。また、梅剪定枝を原料としたバイオ炭化のしくみをつくり、CO2削減・土壌改良・資源循環など環境保全型梅栽培を目指す。

【内容】

○　「SDGs未来都市計画」及び「自治体SDGsモデル事業」推進支援
○　梅剪定枝のバイオ炭化しくみづくり支援
○　住民・職員参加による「みなべ梅ラーニングコモンズ」グループ活動の支援

（大阪・関西万博「ジュニアSDGsキャンプ」）

【成果（見込み）】

○　「みなべ梅ラーニングコモンズ」８テーマの活動のうち、特に梅で健康①町民（先進地視察：琵琶湖システム）、梅で健康②都市と梅で健康③若者（大阪・関西万博におけるジュニアSDGsキャンプ、105名参加）、バイオ炭（勉強会）の企画・講師紹介等の支援を行い、町民・職員実行委員（委員数約50名）による積極的な活動が進んだ。
○　バイオ炭については、第23回日本炭化学会において、みなべ町における取り組みを紹介。
○　広報活動として第９回東アジア農業遺産学会において、みなべ町SDGs未来都市計画や「みなべ梅ラーニングコモンズの」の取り組みを紹介。また、世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」10周年記念シンポジウムにおいて、「学びの場としての世界農業遺産」として、取り組みを報告。